

吉備中央町が実現を目指すまちづくり ～デジタル田園健康特区指定を通じて～

富士通Japan株式会社

少子高齢化や医療機関の不足などの日本の地域社会を取り巻く数々の課題を、私たちはどのように解決すれば良いのでしょうか。岡山県吉備中央町は、内閣府主導の「スーパーシティ」構想において「デジタル田園健康特区」の指定を受け、地域の健康・医療に関する課題解決に取り組んでいます。今回は、吉備中央町町長の山本雅則様、岡山大学 理事・副学長的那須 保友様に、吉備中央町が見据えるビジョンについてご紹介いただきます。

❖ 「小さな町における課題解決のモデルケース」を目指して

岡山県の中央に位置する吉備中央町は、豊かな自然と都市の利便性を併せ持つ地域です。1973年に岡山県が西日本エリアの教育・福祉・文化・産業の中心地を目指して整備を開始した「吉備高原都市」を有するとともに、水稻、高原野菜など数多くの特産品を誇っています。日本国内に数多い「中山間地域」の1つといえるでしょう。実際に、吉備中央町はそうした地域の多くと同様に、人口減少、少子高齢化、医療機関や交通手段の不足などの課題を抱えています。

同町では地域課題の解決を通じて「日本中の小さな町のモデルケースになりたい」という目標達成に向け、スーパーシティ構想の参画を目指しました。2020年7月、参画に向けた勉強会が開催され、同年12月には事業企画を担うスーパーシティ推進協議会が発足。3つのプロジェクトチームと7つの分科会のもと、スーパーシティの国家戦略特区認定に向けた申請を進めました。2021年4月には住民説明会も実施され、約80%の住民から賛同を得られたことにより、自治体、研究機関、企業、地域が一丸となった推進体制が構築できました。

政府に申請の再提案が求められた際には、「救急救命士の

権限・役割の拡大による救急体制の充実」と「母子健康促進支援サービス」を軸とした先駆的な医療DX（デジタルトランスフォーメーション）モデルを構築し、規制改革案をさらにブラッシュアップ。その結果、目標であった「デジタル田園健康特区」への指定が実現しました。

「『デジタル田園健康特区』の指定を獲得できたのは『地域課題の把握』、『推進体制』、『国との頻繁な意見交換』の3つを、しっかり実行できたからだと考えています。これらを実施できた背景には、人とのつながりがありました。大学の先生、富士通、地元企業に参加いただき、住民への説明会と課題把握をしっかりとしたことで、的確な解決策と実現可能性を示すことができました」（山本様）

今後は、吉備中央町と同じく「デジタル田園健康特区」の指定を受けた長野県茅野市、石川県加賀市と連携して、医療情報ネットワークの共通化の推進や、医療体制の縦割り体制の打破、データ共有の促進などを目指していきます。このような取り組みを通じて、日本の地域における医療機関の不足、医師の偏在などを解消していく方針です。

❖ 「エンゲージメント・コミュニティ」の創出を目指した様々な取り組み

さらに同町では「デジタル田園都市国家構想推進交付金」の採択を受け、国が推進するデジタル田園都市国家構想のユースケースの構築にも着手しています。「救急医療」、「母子保健・児童見守り」、「介護・高齢者見守り・移動」、「インクルーシブ・スクエア設立」の4つの領域で事業を展開し、これらを連携させる「データ連携基盤」を確立。医療・母子保健・健康・福祉などのデジタル化を推進し、住民参画型の一元的窓口支援組織・拠点の整備を目指しています。

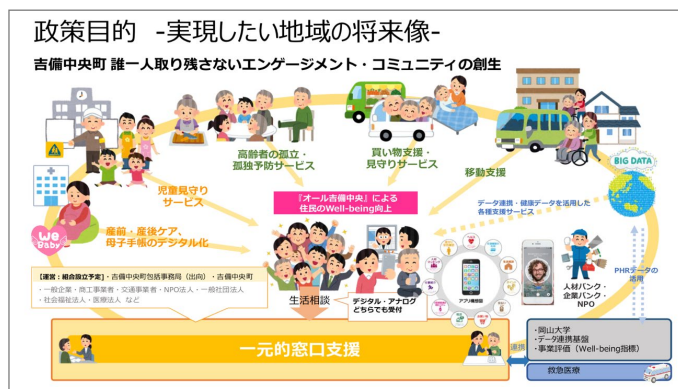
例えば、「救急医療」領域での遠隔救急医療の確立です。搬送救急車内で、医師の指示のもと救急救命士が患者に関す

る情報収集を行い、伝送システムで搬送先医療機関に到着前に情報連携することで診療の早期化、効率化を実現します。

「この取り組みは、関連法規に関わる規制改革を伴うため関係省庁との連携が必要です。仕組みとしてはすでに先行して開発が進んでおり、岡山大学病院教員と県の基金、岡山大学発のベンチャーが開発した、妊産婦緊急搬送補助システム『iPicss(アイピクス)』をプラットフォームとして利用します。今後、さらなる機能拡大とともに全世代・疾患までに領域を広げて運用していきます」（那須様）

また、「母子保健・児童見守り」領域では、母子健康手帳のデータ化を行います。スマートフォンで撮影するだけで、母子健康手帳をデジタル化できるアプリケーション「ウィラバ」を全妊婦に配布。子育て世代の手間や不安を解消し、子育てへのポジティブな風土・環境の醸成を図ります。

これらの取り組みを通じて目指すのは、先端サービスとエンゲージメントの手法を組み合わせた「エンゲージメント・コミュニティ」の形成です。デジタル技術を活用した、社会的孤独や孤立を起こさせない仕組み作りにより、一人ひとりの多様な幸せが確保される地域社会の実現に取り組みます。さらに、一元的な窓口支援によって住民を支える社会システム「インクルーシブ・スクエア」を構築・運営することで、人と組織、地域のエンゲージメントの好循環を創出。地域全体のWell-being向上が実現する地域社会への変容を後押しします。



出展元：有限責任事業組合吉備中央町インクルーシブスクエア

❖ 産官学連携の推進体制により、取り組みのさらなる加速を目指す

「デジタル田園健康特区」、「デジタル田園都市国家構想推進交付金」の取り組みにおいては、将来の住民ニーズに合わせ、システムを常に進化させていかなければなりません。そのためには、進捗管理方法の整備や改善のためのPDCAサイクルの確立が求められます。今後、同町では、吉備中央町デジタル田園健康特区推進協議会、アーキテクトチーム、専門調査諮問委員会といった産官学連携の推進体制により、PDCAの検証を実施

し、取り組みをより効果的に進めていく方針です。

そして、その先に見据えるのは、全国の中山間地域のモデルケースとなる未来です。地域課題の解消を通じて、住民のWell-beingを追求し、人口減少や少子高齢化、医療機関の不足など、日本中の小さな町が直面する問題の解決策を確立していきます。

プロフィール

吉備中央町

所在地	岡山県加賀郡吉備中央町豊野1-2
代表者	町長 山本雅則
概要	岡山県の中央に位置する高原地帯で、吉備高原と呼ばれている一角にある。産業の中心は農業で、水稻を中心に高原野菜、果物、花き、酪農、肉用牛肥育が盛ん。岡山空港に隣接し、中国横断自動車道岡山米子線賀陽インターチェンジを有する特性を生かして、吉備高原都市への産業集積を推進している。
人口	10,591人、職員数：197人 (2022年8月1日現在)
ホームページ	https://www.town.kibichuo.lg.jp/

プロフィール

岡山大学

所在地	岡山県岡山市北区津島中1-1-1
代表者	学長 槇野博史
概要	岡山県岡山市に本部を置く12学部、大学院8研究科、3研究所を有する国立大学。中国・四国地方で最初に設立された。「高度な知の創成と的確な知の継承」を理念に掲げ、公的な知の府として、高度な知の創成と的確な知の継承を通じて人類社会の発展に貢献している。
学生数	10,084人、教員数：1,302人 (2021年5月1日現在)
ホームページ	https://www.okayama-u.ac.jp/

お問い合わせ先

富士通Japan株式会社

お客様総合センター 0120-835-554

ご利用時間：9時～12時、13時～17時30分（土曜日・日曜日・祝日・当社指定の休業日を除く）

〒105-7123 東京都港区新橋 1-5-2 汐留シティセンター

<https://www.fujitsu.com/jp/fj/contact/>